

課題名	ビワ果実腐敗症の出荷後における発生防止																						
成果の要約	<p>びわの収穫2週間前に果実の炭そ病、灰斑病防除の目的でトップジンM水和剤1000倍を散布すると、収穫果の輸送後に発生する腐敗果を顕著に防止することができる。</p>																						
成績概要	<p>収穫前にトップジンM水和剤1000倍の散布を行った果実と無散布の果実について、コンテナ輸送を行い、収穫後4日目、7日目に腐敗果の発生を調査した。なお、コンテナには、ドライアイス20kgを積み込んだ。</p> <p>(1) 収穫後4日目までは、腐敗果の発生が少なく、処理間にほとんど違いはみられなかった。</p> <p>(2) 収穫後7日目になると腐敗果の発生が多く、無散布区はトップジンM水和剤散布区に対し、かなり多い腐敗果が発生した。</p> <p>第1表 収穫前薬剤散布の出荷後果実腐敗への効果</p> <table border="1" data-bbox="462 1231 1407 1780"> <thead> <tr> <th>散布の有無</th> <th>収穫後日数</th> <th>腐敗果の発生割合 (%)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">散布</td> <td>4</td> <td>1.3</td> <td rowspan="2">3 kg箱</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無散布</td> <td>4</td> <td>1.5</td> <td rowspan="2">3 kg箱</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無散布</td> <td>4</td> <td>0</td> <td rowspan="2">1.5 kg箱</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>13.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 輸送方法：コンテナ車、ドライアイス使用。</p> <p style="text-align: right;">(昭59長崎果試)</p>	散布の有無	収穫後日数	腐敗果の発生割合 (%)	備考	散布	4	1.3	3 kg箱	7	7.1	無散布	4	1.5	3 kg箱	7	14.2	無散布	4	0	1.5 kg箱	7	13.3
散布の有無	収穫後日数	腐敗果の発生割合 (%)	備考																				
散布	4	1.3	3 kg箱																				
	7	7.1																					
無散布	4	1.5	3 kg箱																				
	7	14.2																					
無散布	4	0	1.5 kg箱																				
	7	13.3																					

第2表 収穫前薬剤散布の収穫時果実腐敗への効果

① 昭和57年

供 試 薬 剤	炭そ病	灰斑病	灰色かび病
	%	%	%
トップジンM水和剤 1000倍	0.2	0	0
無 散 布	2.1	1.2	1.1

② 昭和54年

供 試 薬 剤	供 試 果 数	果 実 腐 敗
		%
トップジンM水和剤 1000倍	694	0.1
無 散 布	653	2.9

③ 昭和53年

供 試 薬 剤	供 試 果 数	果 実 腐 敗
		%
トップジンM水和剤 1000倍	650	0.2
無 散 布	703	3.7

(長崎果試)

成

績

概

要

普
及
上
の
留
意
点

ビワ果実腐敗（炭そ病・灰斑病）については病虫害防除基準に記載している。
葉の病斑から伝染するので病葉の発生防止に努めることが大切である。